

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 12 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇大豆◇

12 月 1 日の現在の収穫進捗率は 88.9%で、収穫終了は県南地域で 12 月上旬、県北地域で 12 月中旬の見込みです。登熟期の寡日照により粒が小さく、くず粒が多いため収量は平年よりやや少ない見込みです。一部虫害粒、汚損粒の発生がありますが、品質は概ね良好です。収穫後に麦を播くほ場は排水対策を実施しましょう。

◇麦類◇

12 月 1 日現在の播種進捗率は 67.7% (前年同期 25.1%) と順調です。播種終了は 12 月中旬の見込みです。11 月下旬は種のほ場は低温により平年並～2 日程度遅れていますが、出芽後の生育は順調です。播種前後の排水、雑草対策を徹底し、12 月中旬以降に播種を行う場合は播種量を増やしましょう。3 葉期になったら踏圧を行いましょう。

◇イチゴ◇

早期作型は定植後の多雨、寡日照、11 月中旬以降の低温により平年に比べて 1 週間程度生育が遅れ、12 月上旬までの出荷量は平年に比べて少なくなっています。果実は頂果を中心に果形の乱れが多いですが、大玉傾向です。現在頂花房の出荷盛期です。普通作型は同様に生育が遅れ、出荷量は 12 月 15 日以降から徐々に増加する見込みです。果形の乱れが多いものの大玉傾向であり、年末にかけて前年より大玉が確保できる見込みです。一部でハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病、灰色かび病の発生が見られます。生育促進のために保温対策を徹底しましょう。2 番花房も出蕾期になっており、着果負担や天候に応じた摘果、温度や電照管理などを徹底し、厳寒期の草勢維持に努めましょう。また、病害虫の対策を徹底しましょう。

◇トマト◇

土耕促成栽培の主要作型 (9 月下旬以降の定植) は、10 月の寡日照の影響で平年より 1 週間から 10 日程度遅れており、12 月下旬から出荷の見込みです。11 月頃までは樹勢が強い傾向でしたが、着果負担と低温の影響により、現在樹勢はやや弱まっています。一部すすかび病の発生が見られます。換気に努め、高温多湿状態を避けましょう。病害発生初期の対策徹底と、適正な肥培管理に努めましょう。

◇ナシ◇

「愛宕」等晩生種の一部を残し、本年産の出荷は概ね終了しました。夏季の高温の影響により出荷量は中晩生種を中心に例年より減収しましたが、不作だった前年よりは増加しています。次年産の花芽着生はおおむね良好で、早いところではせん定が開始されています。せん定は充実した花芽確保に努め、黒星病及び発芽障害（眠り症）対策として、短果枝の利用割合を高めましょう。施設栽培の被覆開始時期は、低温遭遇時間に留意して決定しましょう。

◇トルコギキョウ◇

秋出荷作型（10～11月出荷）は10月の寡日照によるブラッシング（花蕾の枯死）発生により出荷期が遅延したため、平年に比べて出荷量が少なくなりました。11月は全国的に出荷量が少なかったため単価は上昇しました。9月下旬から10月上旬定植の春出荷作型（3～4月出荷）の生育は概ね順調です。春出荷作型は年内の発蕾以降の施肥を控えましょう。無駄枝整理等によりブラッシング対策を徹底し、斑点病、灰色かび病等の対策も徹底しましょう。

◇豚・鶏◇

11月の豚枝肉価格は前年を11ポイント、過去5年平均を15ポイント上回る水準です。鶏卵価格は例年通り年末に向かって上昇傾向も、前年を5ポイント、過去5年平均を8ポイント下回る水準です。近隣国で鳥インフルエンザ発生が続発しています。特に鶏舎の野鳥侵入対策等、農場防疫を厳重徹底しましょう。豚においてもPED等の発生予防の衛生管理を徹底しましょう。